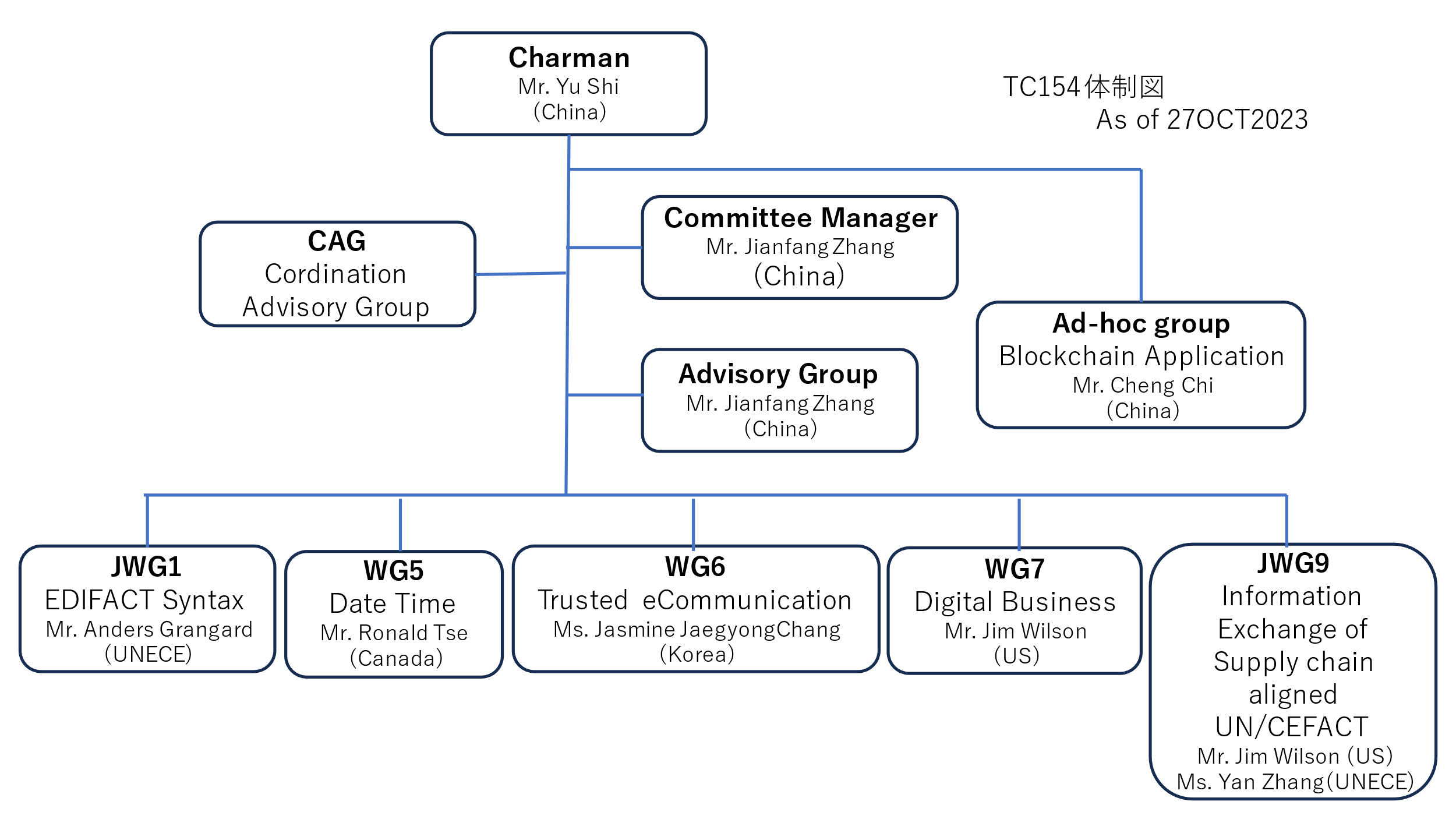
**第42回ISO TC154 総会報告**

会議形式：ハイブリッド

会議場所：香港

会議期間：2024年10月24日～27日

TC154（Processes, data elements and documents in commerce, industry and administration）は、商工業と行政に関わるプロセス、データ要素及び文書の標準化を担当している。現在のTC154の体制を以下に示す。



2023年のISO TC154総会は、香港のCalConnect（カレンダーとスケジューリングの標準対応ツールを提供する非営利団体）事務所での対面形式とZOOMによるオンライン形式のハイブリッドで開催された。Ribose, CalConnect, the Hong Kong Management Association及びITCHKSARが会議開催のホストを務めた。

カナダ、中国、日本、韓国、米国及びISO中央事務局（ISO CS）と国連欧州経済委員会（UNECE）から18名が対面で参加し、他17名がオンラインで参加した。

日本からは、TC154国内審議会でWG1（EDIFACT）及びWG7（Digital Business）担当の菅又久直（Head of Delegation）とWG6（Trusted eCommunication）担当の佐藤雅史氏、西窪健太氏がオンラインで参加した。

会議はTC154議長のMr. Yu Shi（中国）の采配のもとに進行された。

1. オープニングセッション：10月24日 9:00-10:30

１．１ ISO Directive Update

ISO事務局Technical Program ManagerのMs. Laura Mathewより、ISO/IEC Directive（指令）の変更点などの説明がおこなわれた（ISO/TC 154 N 1435）。

* Pメンバーが2回続けて投票をしないと、メンバーは非活動とみなされる。
* 新プロジェクト提案（PWI）で新WGの設立は行えない。
* WG議長（Convener）は国際的見地から活動する。
* ゲストは2回以上継続して参加できない。継続する場合は国またはリエゾンの代表として参加する。
* プロジェクトリーダー変更手続きの明確化。
* 既存ISO標準の新パート提案にもNP投票が必要。
* IECとの合同作業グループについての手続明確化。
* CD投票が発信された後に、それに関する公式な議論を行ってはならない。
* 技術レポート（TR）も定期的に評価する必要がある。
* 標準のオンライン開発（OSD：Online Standard Development）を推奨する。
* ISO Annual Report 2023の紹介が行われた。
* TMB（Technical Management Board）9月会合のトピックが紹介された。
  + スマートシティについてのJTC1サブコミッティが設立された。
  + スマート農業（Smart Farming）調整委員会で、データドリブン農業食品委員会が結成された。

１．２　委員会マネージャ（CM）報告

TC154 Committee Managerの Jianfang Zhang (China)より、TC154委員会の次の状況につき報告がおこなわれた。（ISO/TC 154 N 1430）

* P及びOメンバー状況
* WG構成
* リエゾン状況
* プロジェクト進捗状況

　　１．３　委員長（Chair）報告

TC154委員長の Yu Shi (China)よりCAG（Committee Advisor Group）の報告が行われた。（ISO/TC 154 N 1417）

* TC154とUNECEとの間で合同作業グループの活動に関するTOR（Terms of Reference）が合意された。（ISO/TC 154 N 1393）
* 上記に基づきJWG9（information exchange of supply chain aligned to UN/CEFACT Semantics）が設立された。

1. JWG1セッション：2023年10月24日 11:00-12:30

JWG1はEDIFACTシンタックスを対象としたUNECEとの合同WGである。JWG1 ConvenerのAnders Grangard氏（UNECE）がPCトラブルで参加できなかったため、オンラインで参加したJWG1事務局と対面で出席した菅又が共同で議事を進行した。

昨年度に完了したEDIFACTシンタックスのPart.11（Version 3 compatible profile for version 4 of ISO 9735）以降、新たなプロジェクトとしてEDIFACTメッセージの導入ガイド策定が検討されている。新たなプロジェクトとしてTS（Technical Specification）のNWI（New Work Item）提案をすべきか、国連CEFACTで旧（Version 3対応）導入ガイドを更新し、ファーストトラックで審議すべきか議論が行われた。今回は結論がでず、JWG1に持ち帰って改めて提案方法とすすめ方を検討することとなった。

1. WG6セッション：2023年10月24日 14:30-16:00

WG6は情報通信の信頼性（Trusted eCommunication）に関わる標準を担当しており、ConvenerのJasmine Jaegyong Chang氏（韓国）の進行で次の審議が行われた。なお、Jasmine Jaegyong Chang氏のConvener任期は本年12月までであるが、次期Convenerも当氏が継続することとなった。

３．１　ISO/WD TR 19626-3

韓国のJasmine Jaegyong Chang氏が報告を行った。

* TR19626-3（Trusted communication platforms for electronic documents – Part 3 : Blockchain based Implementation Guideline）のWDへのコメントは全て解決し、DTR投票に進める予定。
* 本TRの開発作業はISOのOSD（Open Standard Development）プラットフォーム上で行われており、使い勝手につきユーザビリティに難点があるとの報告もあった。

３．２　Revision of ISO 14533- 3:2017

日本の佐藤雅史氏が報告を行った。

* ISO 14533- 3:2017（Long term signature profiles – Part 3 : Long term signature profiles for PDF Advanced Electronic Signatures (PAdES)）の改訂案が説明された。
* 2024年3月を目途にCD投票を行う予定。

1. WG5セッション：2023年10月25日 9:00-10:30

WG5は日時表記（Representation of dates and times）に関わる標準を担当しており、ConvenerのRonald Tse氏（カナダ）の進行で次の審議が行われた。

* + ISO34000（Date and time — Vocabulary）が発行された。
  + ISO 8601-2:2019/修正版 1（Date and time — Representations for information interchange — Part 2:Extensions）は審議が終わり近々発行される。
  + 以下の標準が現在作業中である。
* ISO 8601 conformance test suiteの設置 (担当：BSI)
* ISO 34100, 34200, 34300 information models for reference time scales, timezones and calendarsの標準化。和暦等の西暦以外の暦表現の追加も検討されている。 (担当：CalConnect)
* ISO 8601-3 semantic extensions to ISO 8601-1の標準化。 (担当：CalConnect)
* Information register for ISO 34X00 series の開発。(担当：CalConnect)
* ISO8601-1とISO8601-2につき、次期のシステマティックレビュー（SR）において、エラー修正などを行う予定。

1. AHGセッション：2023年10月25日 11:00-12:00

TC154におけるブロックチェーンに関わる標準化の進め方につき、TC307との関係において、どのように対応すべきかを検討するアドホックグループ（AHG）が作られ、その検討結果報告が行われた。AHGグループのリーダーは、中国のCheng Chi氏である。

* AHGはTC307との合同作業グループ（JWG）の設置を推奨する。JWGのスコープは次の通り。
* 商工業及び行政におけるデータ交換アプリケーションでブロックチェーンを使用する場合の技術要件とデータ要素の標準開発と保守を行う。
* ただし、TC154とUNECEとの合同作業グループが扱うものは除外する。
* ブロックチェーン技術による新たな商工業及び行政におけるデータ交換アプリケーションを検討するにあたっては、次の方針を考慮すべきである。
* ブロックチェーンに基づく業界データストレージの一般要件を考慮する。
* 製造サプライチェーンで使用するブロックチェーンに基づくデータアクセス一般要件を考慮する。
* なお、クロージングセッションにおいてTC307へ合同作業グループ（JWG）設置提案の是非につき議論が行われた。TC154には多数のブロックチェーンプロジェクトが複数のWGに散在し、JWGを設置しても作業の進め方で混乱をきたす恐れがある。プロジェクトごとに方針をまとめて、現状の体制からの移行案をまとめてからTC307へのJWG設置提案を検討することとなった。

1. JWG9セッション：2023年10月25日 14:00-15:15

TC154とUNECEとの合同作業に関わる付帯条項（Terms Of Reference）の合意にもとづき、新たな合同作業グループ（JWG9）が設置され、第1回目の会合が開催された。

* JWG9の名称は「国連CEFACTセマンティクスに整合するサプライチェーン情報交換（ISO/UNECE joint working group for information exchange of supply chain aligned to UN/CEFACT semantics）」とする。
* JWG9の体制は次の通り。
* 共同Convenor（UNECE）：Ms. Yan Zhang
* 共同Convenor（TC154）； Mr. Jim Wilson
* 秘書：Mr. Kevin Bishop
* 当面、JWG9は以下のプロジェクトを担当する。
* ISO20197-1 BSP RDM BRS (Buy-Ship-Pay Reference Data Model Business Requirement Specification)：UNECEからのファーストトラック提案。
* プロジェクト共同リーダー（UNECE）：Mr. Zisis Palaskas
* プロジェクト共同リーダー（TC154）：Ms. Sue Probert
* ISO5909：ブロックチェーンで交換する電子BLプロジェクトで、現在、UNECEサイドの開発推進承認待ち。
* ISO23355：物流サービスプロバイダー間のデータ交換標準、現在DIS投票完了。
* ISO7372/TDED（Trade Data Element Directory）：貿易手続きの基本となるデータ要素標準で、国連CEFACTの他、ICC、WCO、UPUなど貿易関係国際機関が採用している。しかし2005年版以来更新されておらず、そのメインテナンスを進めるプロジェクトが提案された。
* プロジェクト共同リーダー（UNECE）：Ms. Hanane Becha
* プロジェクト共同リーダー（TC154）：Mr. Xiang Wang

なお、TDED改訂プロジェクトのキックオフとして、現状の内容についての解説も併せて行われた。

1. WG7セッション：2023年10月26日 9:00-15:00

WG7はビジネスのデジタル化（Digital Business）に関わる標準を担当しており、ConvenerのJim Wilson氏（米国）の進行で次の審議が行われた。なお、中国のWengqu Chen氏がWG7の秘書として指名された。また、Jim Wilson氏のConvenor任期が2023年末で終了することになるが、本総会にてJim Wilson氏の次期Convenor継続が決められた。

* ISO5054（Specification for an enterprise canonical model：エンタープライズ正規モデル）につき以下の報告があった。
* Part-1（Architecture）はISO5054全体像と他のパートの概要を紹介するもので、今年IS（国際標準）として公開された。
* Part-2（Application of ISO 15000-5）：2024年早々にNWIとして申請される予定。
* 以下のパートはファーストトラック申請予定（OASISにて開発中）。
* Part-3（Document content）
* Part-4（Platform content）
* Part-5（XSD representation）
* Part-6（JSON schema representation）
* ISO20191（Carbon data interoperability）のPart-1（Framework）のPWI（Preliminary Work Item）が中国のYu Shi氏により進められている。当プロジェクトはOSD（Online Standard Development）プラットフォームで進められる予定。
* TR 20194（Digital trade - Basic concepts and key initiatives）のPWIが中国のXin Yao氏によって進められている。ISO事務局より、原案にGlossaryが含められているが、TRにGlossaryを含めることはできないとの指摘があった。ISかTS（Technical Specification）にするか検討を行うことになった。
* ISO20195（Technical requirements for blockchain implementation in industrial internet）のPWIが中国のCheng Chi氏によって進められている。Industrial internetは大量データ（設計情報）も扱い、交換頻度が高くないことからブロックチェーンで扱うのは適切ではないとの意見も出されている。
* ISO20180（Guidelines on risk-based product quality data interchange in ecommerce）のPWIが中国のYang Wu氏によって進められており、近々NP投票にかけられる予定。当プロジェクトはFood Safetyを対象として考えられている。なお、原案で定義しているデータ項目につき、国連CEFACTのCCLへの登録を行うよう提言があった。
* ISO16320（Smart contract-based B2B electronic transaction execution and verification）のPart-1（Reference Model）が韓国のYoungkon Lee氏によって進められている。本件は、1回目のNP投票が行われたが、参加国が規定の5か国に足らず不成立となった。日本（菅又が参画する予定）及びカナダが参加国として新たに名乗りを挙げたので、2回目のNP投票が行われる予定。

1. TClevelセッション：2023年10月26日 9:00-12:00

TCレベルの新プロジェクトととして、Vocabulary for locations related to trade and transport（貿易運輸の場所に関わる語彙）プロジェクトの提案が、中国のWenfeng Sun氏より行われた。

* 現在のUN/LOCODEは、都市（City）を核として港、空港、鉄道駅などの機能が追加されている。また、BIC container terminal codes、SMDG facility codes、IMO facility codesなどがサブコードとして使われている。
* しかしながら、都市（Area、City、Townなど）の概念は国により異なり、また物流関連機能コードも発行機関により輻輳している。これらを整理統合したモデルを策定し、必要なコード体系を新たに策定しようと言う提言が行われた。
* 審議の結果、当件につき新たなISO標準化活動を開始することが合意された。

1. クロージングセッション：2023年10月27日 9:00-16:30

リエゾン報告及び各作業グループ報告が行われ、引き続き決議案（Resolution）が合意された。決議案審議の中で、リエゾン（from TC154, to TC154）の可否を審議するために新たにアドバイザリーグループを設置することが合意された。

なお、次回TC154総会は2024年10月に韓国で開催される。